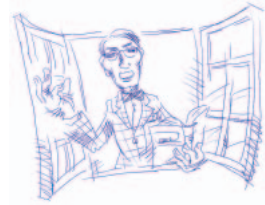




MITがすべての教材をネットで公開！ インターネットが変えるアメリカの大学



4月初め、アメリカでもっとも有名な大学の1つ「マサチューセッツ工科大学（MIT）[Jump](#)」が「大学の授業で使うあらゆる資料や情報をインターネット上で公開する」といふオープンコースウェア（公開教材）の計画を発表した。アメリカで一般に「シラバス」と呼ばれている授業の概要説明書や授業日程表、学生が毎週読むべき参考書の一覧、それから教官が作る講義用のノート、宿題として出された課題にいたるまでを今年の秋の新学期から順次インターネット上にアップし、10年後までにMITの講義のほとんどを占める2000コースの授業の全情報を公開する予定だという。

ドットコム企業が軒並み潰れて「インターネットで情報発信してもビジネスにならない」という結論が定着したいまになって、すぐれた教育の秘訣ともいえる教材群を私立大学のMITが惜しげもなく公開するのは、大学経営にとって自殺行為ではないだろうか。そうした疑問に対し、MITはウェブサイト[Jump](#)で「これは今後の大学界の変化を先取りした事業だ。教室での授業の中心が教官から学生への一方的な情報伝達だった時代は終わり、教官と学生との議論が授業の中心となり始めている。教材を公開しても新入生は減らず、逆に当校の授業のすばらしさを事前に理解した学生たちが集まるようになる」と予測している。

私は現在、MITの近所にあるハーバード大学で学んでいるが、MITやハーバードの授業の中心は確かに相互の議論であり、一方的に講義を聞くものではない。1クラスが20人ないしそれ以下の授業が多く、広い階段教室で行われる講義では学生は自分の名前をボール紙に大書して机の上に置くことを義務付けられたりする。教官が学生を指し、名前を呼んで発言を求められるようにするためだ。毎週2回ほどの授業のほかに、大学院生が指導役となって学生の間で討議をする「セクションミーティング（分科会）」と呼ばれる時間を設けて

いる授業も多い。まだ一方的な講義が多い日本の大学教育とはかなり趣が異なっている。

MITが指摘するアメリカの大学の変化はインターネットの拡大が一因となっている面もある。インターネット上の情報公開がまだあまり進んでいない日本語の世界と異なり、アメリカを中心とする英語の世界では役所や大学、マスコミ、企業などがすさまじい勢いで情報公開を進めた結果、どんなことでもインターネットで簡単に調べられるようになった。そのため一方的な講義をするだけでは学生の興味を引きにくくなっている。

アメリカ各地の大学では、すでに数年前からシラバスや宿題の問題などをウェブ上に置き、自宅などから学生がアクセスできるようにしている。MITの新計画はこれまで学内関係者からのアクセスだけを想定していたこれらの学生向けの情報を一般に向けて積極的に公表していこうというものだ。教材を公開してしまえば、教官は嫌でも従来型の授業スタイルを変えざるを得ないという効果もある。年功序列が強い日本の学界とは異なり、アメリカの大学では学生が毎年教官を評定する。教材がインターネットで公開される制度が定着すれば、誰が良い教官か、学外の人々にも分かるようになる。こうしたシステムは大学を活性化させるに違いない。

MITは核兵器やアポロ計画からコンピュータの開発まで、第二次大戦後のアメリカの科学の急進歩を支える教育、研究の最先端を行く大学であり続けた。その先進性から生まれたのがオープンコースウェアの発想だといえる。日本の大学も取り入れるべき発想ではないだろうか。

[Jump](#) www.mit.edu

[Jump](#) web.mit.edu/newsoffice/nr/zooi/ocw.html

Illustration: Heredia Koori



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp